

外国人旅行者の状況と消費動向について

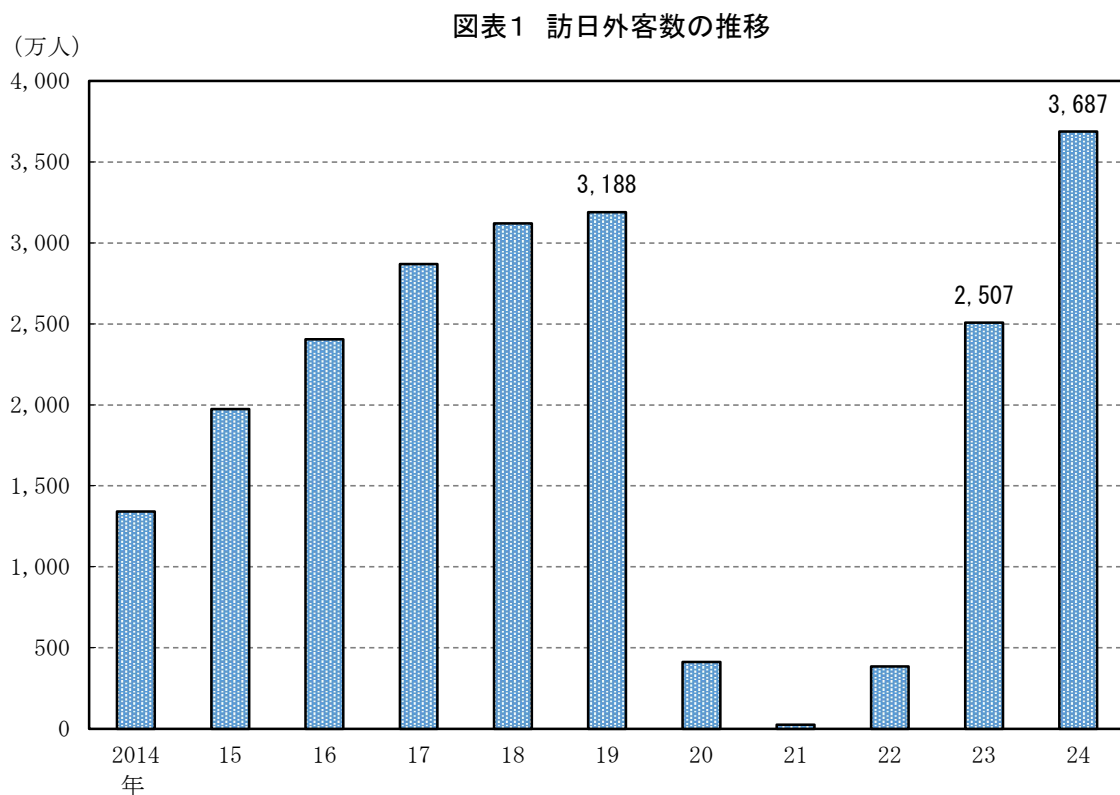
2024年に日本を訪れた外国人旅行者数は3,687万人と、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年に記録した年間値3,188万人を上回り、過去最高となりました。それに伴い、年間の外国人旅行者による消費額も、過去最高の8兆1,257億円となりました。

外国人旅行者の状況と消費動向について、「訪日外客数」（日本政府観光局（JNTO））、「出入国管理統計」（法務省）、「空港管理状況調書」（国土交通省航空局）、「インバウンド消費動向調査」（国土交通省観光庁）などからみていきたいと思います。

○訪日外客数の推移（全国）

「訪日外客数」（日本政府観光局（JNTO））から、訪日外客数の推移を2014年から2024年までみてみます。訪日外客数は2014年から2019年まで増加し続けましたが、2020年から2022年にかけて新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、厳格な入国制限などの水際措置により、大幅に減少しました。

2022年10月に水際措置が緩和された後は増加に戻り、2023年は2,500万人を超え、2024年は3,687万人と前年比では47.1%増加、過去最高であった2019年比でも15.6%増加し、年間過去最高となりました。（図表1）



（注）訪日外客数とは、国籍に基づく法務省集計による外国人正規入国者数から日本に居住する外国人を除き、これに外国人一時上陸客等を加えた入国外国人旅行者のこと

資料：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」

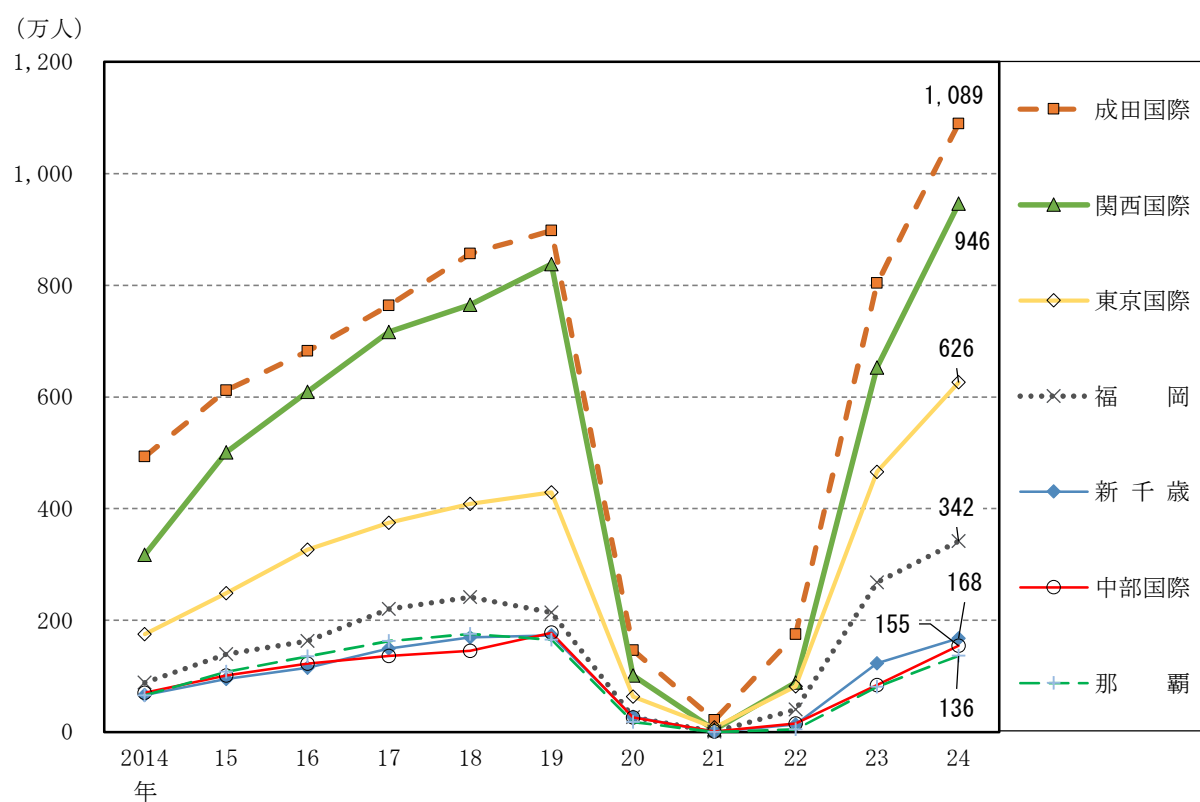
○国内空港における外国人入国者数

「出入国管理統計」（法務省）から、2024 年に日本へ入国した外国人 3,678 万人について、空港と港の利用割合を算出すると、98.5%にあたる 3,622 万人が空港を利用しました。

2024 年に、外国人入国者の利用が 100 万人を超えた空港をみると、成田国際 1,089 万人、関西国際 946 万人、東京国際 626 万人、福岡 342 万人、新千歳 168 万人、中部国際 155 万人、那覇 136 万人となりました。空港利用者の 95.6%にあたる 3,462 万人がこの 7 つの空港を利用しました。

また、7 つの空港のなかでも、成田国際、関西国際の利用者が特に多いことがみてとれます。（図表 2）

図表 2 外国人入国者数(7空港)



(注) 外国人入国者数とは、新規入国者数と再入国者数の合計

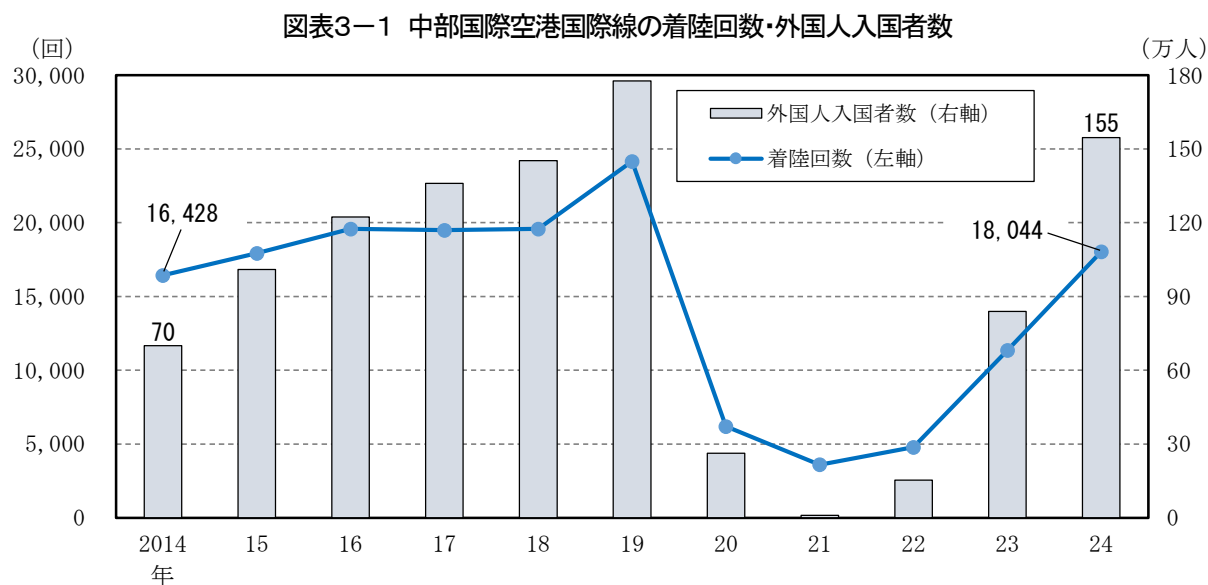
- ・新規入国者とは、我が国への入国時に在留資格を受けて上陸を許可された者のこと
- ・再入国者とは、我が国に、中長期にわたり在留している外国人(特別永住者を含む。)で、一時的に我が国を出国し、再び入国した者のこと

資料:法務省「出入国管理統計」

○中部国際空港国際線の着陸回数・外国人入国者数

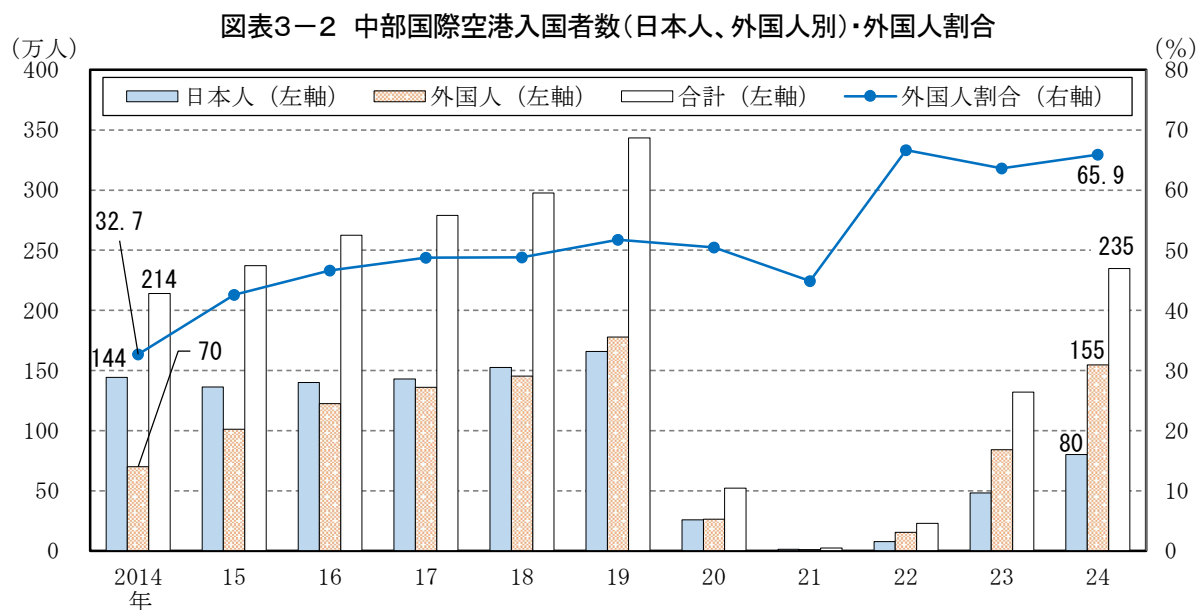
「空港管理状況調書」（国土交通省航空局）、「出入国管理統計」（法務省）から、中部国際空港国際線の着陸回数及び外国人入国者数の推移をみると、2014年（着陸回数16,428回、外国人入国者数70万人）から2019年にかけて増加を続けた後、2020年に新型コロナウイルス感染拡大の影響で激減しました。

2024年には着陸回数は18,044回まで増加し、外国人入国者数は155万人となりました。10年前の2014年と比較すると、着陸回数は約1.1倍と微増でしたが、外国人入国者数は約2.2倍と大幅に増加しています。（図表3-1）



資料：国土交通省航空局「空港管理状況調書」、法務省「出入国管理統計」

中部国際空港を利用して入国する外国人の割合は増加傾向にあり、2014年時点では32.7%（日本人144万人・外国人70万人）であった外国人の割合は、2024年には65.9%（日本人80万人・外国人155万人）まで増加しました。（図表3-2）



資料：法務省「出入国管理統計」

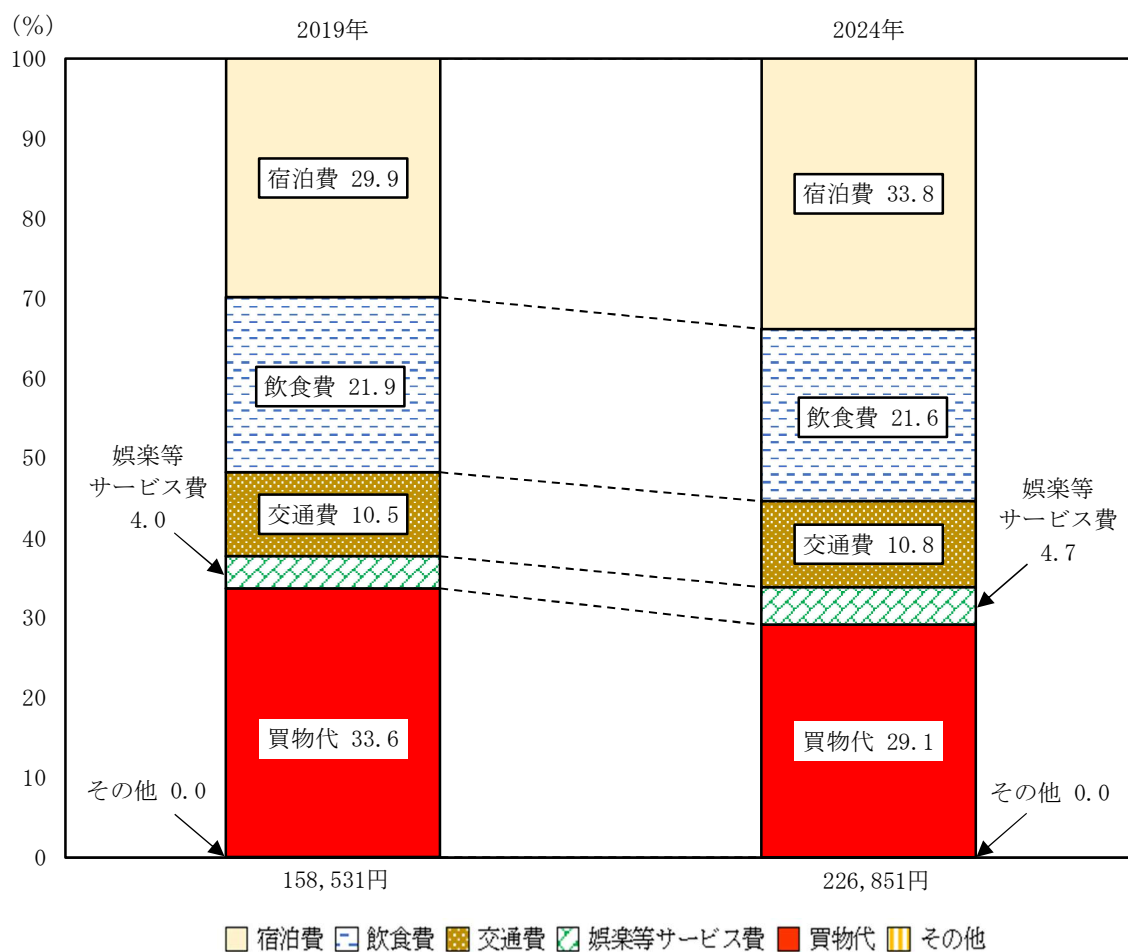
○訪日外国人旅行者の消費動向（全国）

「インバウンド消費動向調査」（国土交通省観光庁）から訪日外国人（一般客）1人当たり旅行支出をみると、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年は158,531円でしたが、2024年は226,851円と2019年比では43.1%増となりました。

費目別構成比をみると、最も多い費目は、2019年は買物代であったのに対し、2024年は宿泊費となりました。

2019年の宿泊費の割合は29.9%でしたが、2024年には33.8%まで増加しました。また、買い物代の割合は33.6%から29.1%に減少し、娯楽等サービス費の割合は4.0%から4.7%に増加しました。（図表4）

図表4 訪日外国人（一般客）1人当たり旅行支出の費目別構成比



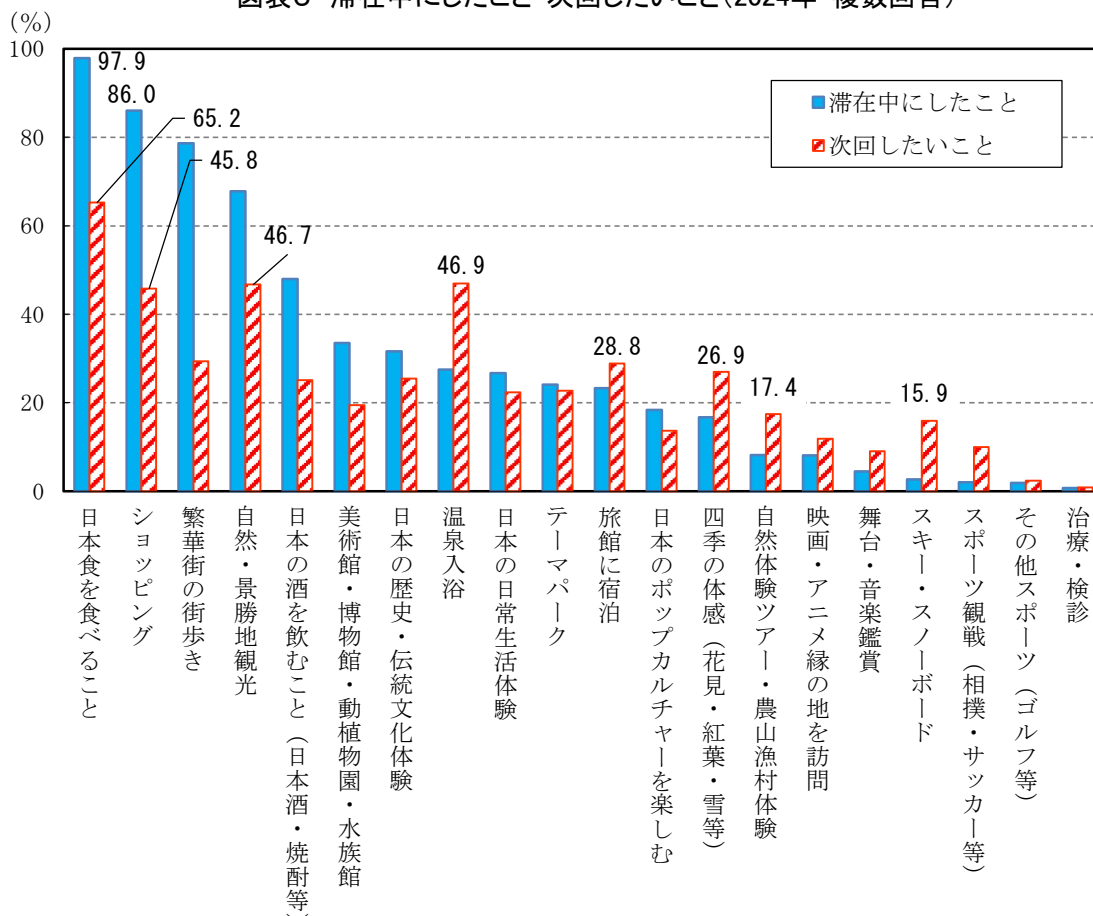
（注）訪日外国人旅行者とは、国籍に基づく法務省集計による外国人正規入国者数から日本に居住する外国人を除き、これに外国人一時上陸客等を加えた入国外国人旅行者のこと
資料：国土交通省観光庁「インバウンド消費動向調査」

「インバウンド消費動向調査」（国土交通省観光庁）から滞在中にしたことをみると、最も選択率が高かったのは「日本食を食べること」で、次いで「ショッピング」が高い選択率となっています。また、「日本食を食べること」は、次回したいことでも最も高い選択率となっています。

一方、滞在中にしたことで2番目に高い選択率であった「ショッピング」は、次回したいことでは4番目に順位を下げています。

実際に滞在中にしたことよりも、「温泉入浴」「旅館に宿泊」「四季の体感（花見・紅葉・雪等）」「自然体験ツアー・農山漁村体験」「スキー・スノーボード」等が次回したいことでの選択率が高いようです。（図表5）

図表5 滞在中にしたこと・次回したいこと(2024年・複数回答)



資料:国土交通省観光庁「インバウンド消費動向調査」

〇おわりに

2024年は、日本を訪れた外国人旅行者数及び外国人旅行者による消費額ともに過去最高となり、円安などの影響を背景に、1人当たりの旅行支出も増加しました。

再訪の際は、物を購入することを中心とした「モノ消費」から、日本ならではの文化や体験を重視し、旅行中にしかできない経験を求める「コト消費」への意識が高いことがうかがえます。